

## 肉眼解剖(感覚器系)の学習目標

### I. 視覚器

#### 1)眼窩の成り立ち

- 1 眼窩壁の構成がわかる。
- 2 眼窩壁の構成と眼窩内の諸器官の位置関係がわかる。
- 3 眼窩壁にある孔とそれらを通ずる構造がわかる。
- 4 眼窩に出入りする神経と動静脈が通過する場所がわかる。

#### 2)眼瞼と結膜

- 1 眼瞼の内部構造と付属腺がわかる。
- 2 眼瞼結膜と眼球結膜の区別と両者の折れ返り(結膜円蓋)がわかる。

#### 3)涙器

- 1 涙腺の位置と分泌の制御が説明できる。
- 2 涙点、涙小管、涙嚢、鼻涙管がわかる。
- 3 鼻涙管の鼻腔への開口部位がわかる。
- 4 涙の分泌に関する神経学的な制御、その流れ、排出にいたるまでの一連の経緯が説明できる。

#### 4)眼球

- 1 眼球の表面から内部へどのような層状構造があるのか説明できる(眼球の前部と後部の両方について)
- 2 視神経と眼球の位置関係がわかる
- 3 視神経乳頭と中心窩、これらの位置関係と機能的な特殊性が説明できる
- 4 視神経乳頭を通ずる構造が説明でき、それらがこの場所で障害されやすい理由が説明できる。
- 5 毛様体、虹彩、レンズがわかる
- 6 前眼房と後眼房が説明できる
- 7 眼房水の生成から吸収までが説明でき、また眼房水の機能的意義や吸収障害と疾患(緑内障)の関係が理解出来る。
- 8 毛様体神経節の位置と働きが説明できる
- 9 瞳孔括約筋、瞳孔散大筋、毛様体筋が存在する位置とその働きと神経支配を理解し、説明出来る。
- 10 視交叉の位置と周囲の構造との位置関係がわかる。

#### 5)外眼筋

- 1 外眼筋および上眼瞼挙筋の位置、付着、支配神経がわかる。
- 2 外眼筋の作用がわかる。

3 支配神経が麻痺するとどのような症状が起こるか説明できる(眼球運動検査の臨床な意義が神経解剖学の立場から理解出来る)。

#### 6) 眼神経と眼窩の脈管

- 1 眼神経の枝(前頭神経、鼻毛様体神経、涙腺神経、およびこれらの枝)の走行とその働きがわかる。
- 2 眼動脈の起始部位と走行、主要な枝がわかる。
- 3 網膜中心動脈の走行がわかる。
- 4 眼窩の静脈系は、外頸静脈系と海面静脈洞に接続していることがわかる。

## II. 聴覚・平衡感覚器

### 1) 外耳

- 1 耳介の各部位について大まかに理解されている。
- 2 耳介周囲の組織学的な構造の特徴を加味し、寒冷暴露に弱いこと、血腫が出来やすい構造学的特性を説明出来る。
- 3 耳介に観察される筋について、大まかに理解されている。

### 2) 外耳道

- 1 軟骨性外耳道と骨性外耳道の構成を理解している。
- 2 耳道腺の組織学的性状について理解出来る。

### 3) 中耳

- 1 鼓膜の構造について理解し、鼓膜切開に適した位置について理解し、解剖学的構成理由からその整合性を説明出来る。
- 2 鼓室を構成する「壁」を理解出来る。
- 3 耳小骨の構造とそれぞれの連結(関節)機構を理解出来る。
- 4 鼓室内に存在する筋とその役割を理解出来る。
- 5 鼓索神経の走行を理解することが出来る。
- 6 耳管の構成と機能的意義について説明出来る。

### 4) 内耳

- 1 骨迷路と膜迷路の概念が理解出来る。
- 2 聴覚に係る構造(蝸牛)と平衡感覚に係る構造(前庭・半規管)を区別して理解出来る。
- 3 蝸牛の構造(前庭階、鼓室階、蝸牛管)と音の伝わり方が理解出来る。
- 4 音の感受器(コルチ器)の構造と音が神経伝達として伝わる仕組みを理解し、説明出来る。
- 5 伝音性難聴(外耳・中耳性難聴)と感音性難聴(内耳性難聴)の違いが機能形態学的な観点から理解し、説明出来る。

- 6 前庭とその中に存在する球形嚢・卵形嚢の構造、その機能が理解出来る。
- 7 各半規管の位置関係と膨大部にある膨大部稜の構造、機能が理解出来る。
- 8 身体の直線加速度的感覚の受容、回転加速度的感覚の受容の違いが理解出来る。
- 9 頭部における内耳器官の位置関係(角度、方向)が理解出来、説明出来る。